14 受水槽設備

※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。

15 浄化槽設備

※浄化槽仕様書による。

⑯ 営繕保温仕様（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）

給排水衛生設備　管類

施工箇所	保温種別	給水管	排水管	消火管	給湯管	ガス管
屋内露出	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.合成樹脂製カバー	○	○		○	
機械室・倉庫	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.アルミガラスクロス化粧原紙	○	○		○	
天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧付グラスウール保温筒　2.アルミガラスクロス粘着テープ	●	○		●	
床下・暗渠内	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.着色アルミガラスクロス	○				
床下・暗渠内・ｺﾝｸﾘｰﾄ内	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.着色アルミガラスクロス				○	
屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板				○	
屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板	○	○	○		
黒管塗装	1.錆止めペイント（2回）　2.調合ペイント（2回）					
白管塗装	1.エッチングプライマー　2.錆止めペイント（1回）　3.調合ペイント（2回）			○		○

空調設備工事（冷温水 冷媒）管

施工箇所	保温種別	温水管	蒸気管	冷水管 冷温水管	冷水管	ブライン管	冷媒管
屋内露出	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.合成樹脂製カバー	○	○	○			○
屋内露出	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.合成樹脂製カバー					○	
屋内露出	1.被覆銅管の断熱材　2. 保温化粧ケース						●
機械室・倉庫	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.アルミガラスクロス化粧原紙	○	○	○			○
機械室・倉庫	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.アルミガラスクロス				○	○	
天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧付グラスウール保温筒　2.アルミガラスクロス粘着テープ	○	○				
天井内・PS内・空隙壁中	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.アルミガラスクロス			○			○
天井内・PS内・空隙壁中	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.アルミガラスクロス				○	○	
床下・暗渠内・ｺﾝｸﾘｰﾄ内	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.着色アルミガラスクロス	○	○	○			○
床下・暗渠内・ｺﾝｸﾘｰﾄ内	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.着色アルミガラスクロス					○	
屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板	○	○	○			○
屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板					○	
屋外露出・多湿箇所	1.被覆銅管の断熱材　2. 保温化粧ケース						●

一般風道

区分	屋内露出 機械室・書庫・倉庫	屋内露出 居室・廊下	屋内隠ぺい	屋外露出 多湿箇所
矩形風道	1.鋲 2.アルミガラスクロス化粧グラスウール保温板 3.アルミガラスクロス粘着テープ	1.鋲 2.グラスウール保温板 3.着色亜鉛鉄板	1.鋲 2.アルミガラスクロス化粧グラスウール保温板 3.アルミガラスクロス粘着テープ	1.鋲 2.グラスウール保温板 3.ポリエチレンフィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板
円形風道（スパイラルダクト）	1.アルミガラスクロス化粧グラスウール保温帯 2.アルミガラスクロス粘着テープ	1.グラスウール保温帯 2.鉄線 3.着色亜鉛鉄板	1.アルミガラスクロス化粧グラスウール保温帯 2.アルミガラスクロス粘着テープ	1.グラスウール保温帯 2.鉄線 3.ポリエチレンフィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板

排煙風道

区分	保温種別
矩形	屋内隠ぺい　1. 鋲　2. アルミガラスクロス化粧ロックウール保温板　3. アルミガラスクロス粘着テープ　4. きっ甲金網（鉄）
円形	屋内隠ぺい　1. アルミガラスクロス化粧ロックウール保温帯　2. アルミガラスクロス粘着テープ　3. きっ甲金網（鉄）
煙道	1. ロックウールブランケット　2. 鉄線　3. 着色亜鉛鉄板

※ ポリスチレンフォーム保温筒及びロックウール保温筒又は、保温板の使用が困難な箇所は、ロックウールフェルトを使用してもよい。
※ ストレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。
※ 防火区画を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール保温材とする。
※ 蒸気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。
※ スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。
※ ＯＡダクトが室内空調空間を経由する場合は保温すること。
※ 全熱交換器の一次側ＯＡ、ＥＡダクトは保温工事を施すこと。
※ ドレン管の保温は、排水管の項による。

17 住宅保温仕様（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）

給排水衛生設備　管類

施工箇所	保温種別	給水	排水	給湯	ガス
屋内露出（住宅内）黒管	1.錆止めペイント（2回）　2.調合ペイント（2回）	○	○		
屋内露出（住宅内）白管	1.エッチングプライマー　2.錆止めペイント（1回）　3.調合ペイント（2回）	○	○		○
屋内露出（住宅外）	1.エッチングプライマー　2.鉄線　3.原紙　4.綿布　5.目止め　6.調合ペイント（2回）	○	○		
機械室内	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.原紙　4.アルミガラスクロス	○			
メーターボックス内黒管	1.錆止めペイント（2回）　2.調合ペイント（2回）		○		
メーターボックス内白管	1.エッチングプライマー　2.錆止めペイント（1回）　3.調合ペイント（2回）				○
メーターボックス内	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.アルミガラスクロス	○		○	
床下・暗渠内	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.着色アルミガラスクロス	○			
床下・暗渠内	1. 錆止めペイント（鋼管部）		○		
天井内・PS内	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.アルミガラスクロス	○	○		
スラブ上床板間転がし	1.保温チューブ	○			
スラブ上床板間転がし	1.ねじ部錆止め		○		○
洗面台内	1.エッチングプライマー　2.錆止めペイント（1回）　3.調合ペイント（2回）	○			
屋外露出	1.ポリスチレンフォーム保温筒　2.粘着テープ　3.ポリエチレンフィルム　4.・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板	○			
屋外露出	1.グラスウール保温筒　2.鉄線　3.ポリエチレンフィルム　4.・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板			○	
屋外露出黒管	1.錆止めペイント（2回）　2.調合ペイント（2回）		○		
屋外露出白管	1.エッチングプライマー　2.錆止めペイント（1回）　3.調合ペイント（2回）		○		○
コンクリート内	1. 0.4m/m防食ビニールテープ1/2重ね1回巻き	○	○		○
木造壁内	1. 保温チューブ	○			
流し裏	1. 保温チューブ	○			
土中埋設	1.ペーストペトラタム系　2.ペトラタム系防食テープ 1/2重ね1回巻き	○			

※ 硬質塩化ビニル管及び鋳鉄管のコンクリート、地中埋設部は防食施工しない。
※ サニタリーベンド及び通気管の屋内露出部分は塗装する。
※ 屋内露出（便所）の通気管は塗装する。
※ コンクリート貫通部分には、防食処理を行う。
※ 間仕切壁（PL板除く）貫通の場合は両側にプラスチックプレート取付のこと。
※ 支持金物仕様PS内（鋼製）、屋外（SUS製）、その他（樹脂製）とする。
※ さや管ヘッダー工法におけるヘッダー管は保温を行うこと。

⑱ 建設副産物の処理について

資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物　（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
・がれき類 （コンクリート塊） （アスファルト塊） ・木くず ・汚泥	・廃プラスチック ・ガラス、陶磁器くず ・廃石こうボード ・金属くず ・繊維くず

特別管理産業廃棄物

・廃石綿等

「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル（環境庁大気保全局）」に従い、収集、運搬、処分を行う。

・廃PCB等

「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

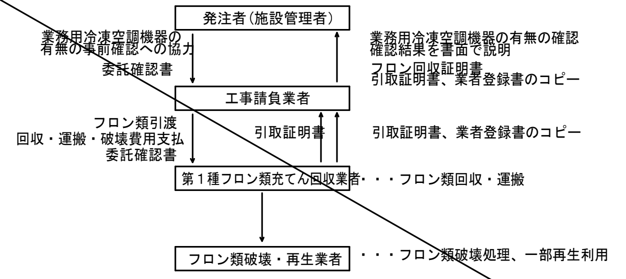
※参考受入場所は現場説明書による

建設副産物の処理内容

処理内容	備考
現場内における分別	
現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの積込み・運搬・処分	
「建設副産物の処置計画届」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

19 フロン処理について

「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。


発注者（施設管理者）
業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力
委託確認書
業務用冷凍空調機器の有無の確認
確認結果を書面で説明
フロン回収証明書
引取証明書、業者登録書のコピー
工事請負業者
フロン類引渡
回収・運搬・破壊費用支払
委託確認書
引取証明書
引取証明書、業者登録書のコピー
第１種フロン類充てん回収業者・・・フロン類回収・運搬
フロン類破壊・再生業者 ・・・フロン類破壊処理、一部再生利用

※ 工事請負業者は、第１種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第１種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付のこと。

※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。

20 中水道配管設備

１ 水源　・雨水　・雑用水処理水　・井水

２ 配管材料
- 一般配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VA）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PA）
  - ・塩ビライニング鋼管（SGP−VB）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PB）
  - ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）(屋内)　・鋳鉄管（　型　種）
  - ・ステンレス鋼管（SUS）　（・圧縮接合　・溶接接合　・拡管接合）
- 屋内地中配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VD）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PD）
  - ※ブチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
- 屋外地中配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VD）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PD）
  - ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）　・水道用硬質塩化ビニル管（VP）
  - ※ブチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。
  - ・ポリエチレン管　1種（PE）　（・溶着接合　・金属継手接合）

３ 誤接続の防止対策

配管等	
屋内隠ぺい配管	1. 保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1個所3回巻きにし、1m間隔に巻く。
屋内・屋外露出配管	1. 保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。
地中埋設部 コンクリート内埋設部の配管	1. 埋設前の裸管に若草色の表示テープを1個所3回巻きにし、1m間隔に巻く。 2. 「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地中埋設部）
メーター	1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。
バルブ等	1. バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある個所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。

注）若草色とは黄緑色をいう。
処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事組合に常備。
井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。

４ 試験　誤接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験等を行う。

図1−1 配管埋設参考

埋設深さH	
1	300以上
2	600以上
3	以上

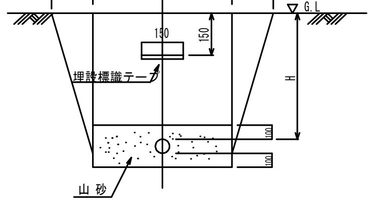


図１−２水槽類埋設参考

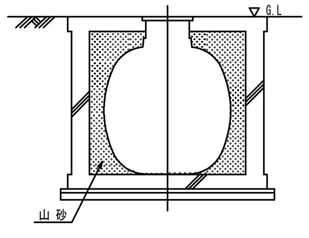
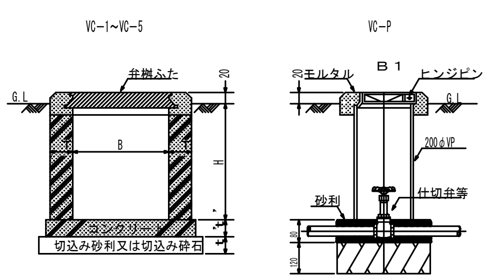


図２　弁　桝



記号	弁の呼び径	B	B	T	t'	t"	ふた
ＶＣ−Ｐ	25 以下	200φ	——	——	——	——	Ｂ１
ＶＣ−１	40 以下	180x180	550	75	75	75	Ｂ１
ＶＣ−２			850	100	100	100	
ＶＣ−３	50~ 80	300x300	700	100	100	120	MHA-P300
ＶＣ−４			900				
ＶＣ−５	100~200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注（イ）本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。
（ロ）コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。なおコンクリート部は工場製品でもよい。
（ハ）桝底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

図３−１　ドロップ桝参考図

（※副管サイズは主管サイズより１サイズ下でも可。）

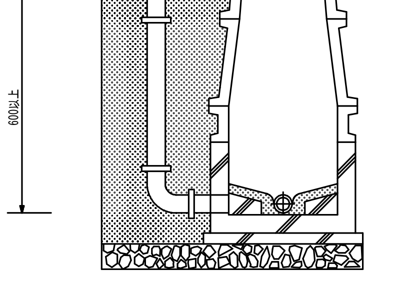
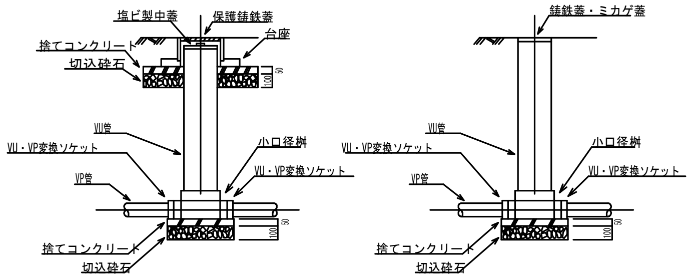


図３−２　小口径桝取付要領図

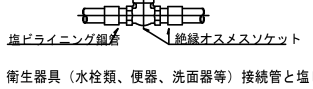


（1）重荷重　（2）軽荷重

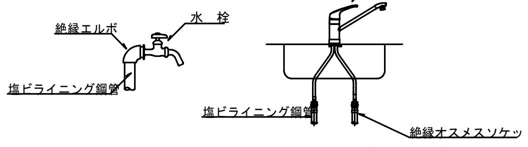
図４　異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。
使用箇所例を下記に示す。

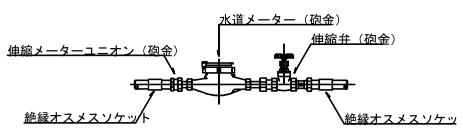
1. 砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（コア入りバルブは除く。）



2. 衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部



3. マイクロエアベンド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部
   絶縁エルボ又は絶縁オスメスソケットを使用すること。
4. 水道メーター（砲金）、伸縮弁（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部

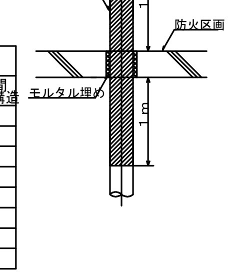


5. 水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部
6. 上記以外の異種金属接続部

図5　防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第１２９条の２の５第１項第７号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

1. 防火区画等の貫通部分及び両側１m以内を不燃材料で造ること。（右参考図参照）
2. 平成１２年建設省告示第１４２２号に適合すること。（下表）
   （難燃材料又は硬質塩化ビニル管(VP)を用いる場合）

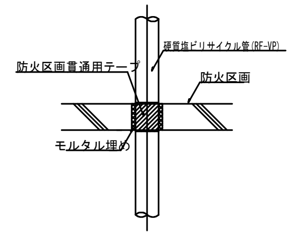


用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径 防火構造	給水管等の外径 ３０分耐火構造	給水管等の外径 １時間耐火構造	給水管等の外径 ２時間耐火構造
給水管		5.5mm以上	90mm(75)			
		6.6mm以上	115mm(100)			90mm
排水管及び排水管に付属する通気管	無し	4.1mm以上	61mm(50)			
		5.5mm以上	90mm(75)			61mm
		6.6mm以上	115mm(100)		90mm	61mm
	厚さ0.5mm以上の鉄板の覆い有り	5.5mm以上	90mm(75)			
		6.6mm以上	115mm(100)			90mm
		7.0mm以上	141mm(125)		115mm	90mm

※表中の（　）内は適合可能な硬質塩化ビニル管(JIS K 6741のVU管を除く）の呼び径寸法を示す。
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

3. 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例１）硬質塩ビリサイクル管(RF-VP)に防火区画貫通用テープを用いる場合（右参考図参照）



例２）耐火二層管を認定条件に従って施工する場合
（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から１mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など）

表1　厨房排気ダクトの板厚

厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による

〔単位：mm〕

ダクトの長辺	板厚 亜鉛鉄板	板厚 ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	

Ｈ２９−４

工事名称	豊津小学校屋外トイレ新設工事		図面番号	図面番号	日付	照査	部長	担当	製図
			M／02	意・構・電・㊞設					
図名	機械設備　特記仕様書（２）	縮尺 A1:N.S A3:N.S							